

表2: 『ソコル』記事一覧(主に生理学・衛生学にかかわるもの)(1871～1914年)

掲載年	タイトル(著者)	連載回数
1871	我々の課題、方向、目的(M. ティルシュ・ソコル創設者の一人)	1
1871	体操および体操協会は、国民の防衛に寄与するか(M. ティルシュ)	5
1872	国民経済学の観点から見た体操について(M. ティルシュ)	2
1872	人間身体への体操の作用について(M. ティルシュ)	8
1873	美的観点から見た体操(M. ティルシュ)	7
	[1877年から1880年まで休刊]	
1881	身体と精神の発展に対する体操の利点	1
1881	ソコル協会の衰退の原因とその復活の条件について(M. ティルシュ)	7
1882	ダーウィン理論の見地から見た体操の意義について(ウィーン技師・建築家協会で行われた V. ジルペラーによる講演。ジルペラーは「オーストリア・スポーツの父」と呼ばれる人物。翻訳は J. E. シャイネル。)	3
1883	ベルリン衛生博覧会	2
1884	人民の身体に対する体操の作用	5
1887	体育館の建設について	2
1887	体操の倫理的意義	1
1888	人間の総体に対する身体運動の影響について(医師 R. クレイチャー)	2
1889	体操による心気症(hypochondrie)の治療(Der Turner [体操家] (1887)に掲載された prof. Ideler の記事の紹介。紹介者は医師の R. クレイチャー)	1
1890	学校衛生(ベルリンで出版された『学校衛生学 Schulgesundheitslehre』の内容紹介)	2
1891	体操についての医師の見解	2
1891	何故我々のところでは熱心に体操に取り組まないのか?	3
1891	文化発展における身体運動の重要性 — 体操、スポーツ、職業技能としての身体能力(gymnastika)(文献学者 V. アンゲルシュタインの講演より)	3
1892-1897	医者観点から見た成人の体操について(仏の生理学者 F. ラグランジュの新刊 De l'exercices chez les adultes, 1891 の翻訳)	39
1893	近代体育における改善の努力	7
1894	姿勢に対する身体運動の影響	2
1897	今日の人民社会(lidská společnost)の営みにおける病理学について(ソコルの為に準備された講演)	1
1897	ソコル協会における職人の子弟への教育について	1
1897	体操に関する今日的な問題について(独の生理学者 F. A. シュミットの理論紹介)	4
1898-1901	身体運動の生理学(仏の生理学者 F. ラグランジュの著書 Physiologie des exercices du corps, 1888 の翻訳紹介)	26
1900	体操と健康(ポーランドの医師界における最近の議論。翻訳と注釈は外科医の D. パニーレク)	5
1900	職業特有の病気と体操(独体操協会の雑誌 Deutsche Turnzeitung für Frauen からの転載。翻訳は医学博士候補生の E. ミハーレク)	1
1901	より男らしい壮年期(30-60歳)を迎えるための身体運動の必要性和選択すべき体操の種類(1900年にチューリヒで行われた H. Ritter の講演。翻訳は医師の V. ベクサ)	1
1902	運動の生理的作用	1
1903	人間身体における体操の作用による物質の変化(医師 R. ポコルニーによる講演)	1
1904	自然選択(K. ヴァニーチェク)	1
1904	筋肉とその本質、および運動(独の生理学者 F. A. シュミットによる議論の紹介)	1
1905	心臓と肺への体操の影響(医学教授ザンデル)	1
1906	ソコル式救急箱(医師 D. パニーレク)	1
1906	体操による治療(医師 D. パニーレク)	1
1906	社会衛生学と社会人類学の見地から見た若者の教育と教養	1
1907	国民の健康と力の為に行う身体運動の意義	1
1910	体操に関わる医学文献 1750-1850年	1
1911	子供と若者向け体操の衛生学(仏の生理学者 F. ラグランジュ。翻訳は医師の V. ベクサ)	3
1911	ドレスデン国際衛生博覧会	2
1912	ソコル式衛生学(医師 V. ベクサ)	4
1912	呼吸と肺の発達に対する身体運動の影響	2
1912	人格の発達に関する体育の影響	2
1913	心臓とその動作に対する身体運動の影響(医学博士候補生 V. ヴェルコポルスキー)	2
1913	女性と男性の運動を区別する生理学的理由	1
1914	さまざまな身体体操のそれぞれの価値 — (独の生理学者)F. A. シュミットの講演に基づく生理学的考察(著者は医学博士候補生の V. ヴェルコポルスキー)	1